

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1271400333
法人名	有限会社 ウィズケア
事業所名	グループホームあすなろ
訪問調査日	平成 20年 3月 5日
評価確定日	平成 20年 3月 31日
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1271400333
法人名	有限会社 ウィズケア
事業所名	グループホームあすなる
所在地 (電話番号)	千葉県香取市玉造483-2 (電話)0478-55-8817

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成20年3月5日	評価確定日	3月31日

【情報提供票より】(20年 1月 25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤4人、非常勤6人、常勤換算7.6人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建て	1階	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(1月 25日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	52歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	坂本医院、大栄病院、小倉歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南向きで陽当たりが良く、周囲の自然環境が良い、明るい立地のホームです。開設後3年半が経過し、場造りに慣れてきた、利用者の一人一人が大変元気のあるアットホームな雰囲気ของกลุ่มホームです。運営者と利用者とかみあった健康的な家族的なホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は「地域との付き合い・働きかけ」という点です。開設後3年半が経過し、町内会への加入と参加や年二回のホーム内「あすなる祭」への地域の方々のお招き等、地域との交流は次第に高まっていますが、なお十分とは言えないようです。(管理者面談等より)
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の「自己評価」に対する取り組みでも、同じく「地域とのつきあい」が重点課題となっています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	推進会議は平成19年は、7月と11月の2回開催されております。メンバーも徐々に増員され、玉造地区の民生委員や町内会役員とのコミュニケーションは良好となっています。これまでの討議内容は情報交換レベルに留まっていますが、今後は多面的な実施事項を取り上げ、前向きに会議が運営されることが期待されます。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は設立されておりますが、これまでは十分機能しているとはいえない状態です。(平成19年7月、2名出席が最も新しい会合。)但し、管理者面談等より、今後家族会としての前向きの活動が期待されます。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携では、町内会に加入し、年二回のホームの「あすなる祭」に地元の方々の参加をよびかけ、さらに近くの保育園の「運動会」にホームより参加しています。今後はホームの「新聞」や「お便り」の発行、配布等地元との交流が次第に高まっていくと考えられます。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に生きる. 人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。」を理念として額に入れてリビングルーム等に掲示しています。	○	開設後3年半が経過し、ようやく運営が軌道に乗ってきたと思われます。いよいよ「地域密着型サービス」を展開する時期となり、本年度以降その方針の具体化が期待されます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の全体ミーティングでも理念を持ち出して確認し合うなど、問題が起る度に理念に立ち返り解決を導き出していることが、管理者面談等で窺がえます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し代表が会合に出席すると共に、年二回のホームの「あすなる祭」に地域の方々の参加を呼びかけております。さらに、近くの保育園の「運動会」にホームより参加するなど、地域交流が次第に高まっています。	○	「あすなる祭」の「開催ビラ」は、「出し物」の多彩さと共に魅力を感じます。今後はホームの「新聞」や「お便り」の発行・配布等により地元とのコミュニケーションを益々本格化することが期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでの外部評価結果及び今回の自己評価の内容を、ホーム内研修で議題として取り上げ学んでいく考えであることが、管理者面談等で窺がえます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年二回のペースで推進会議を実施しています。これまでは、お互いの情報交換が主な会議内容でしたが、今後は次第に実施事項を取り上げて、業務に活用することが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県認知症介護研修、市ケアマネ連絡会、市グループホーム連絡会等に参加して、サービスの質の向上をめざしています。さらにケースバイケースで市担当課と打ち合わせを重ねていることが資料等より窺えます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時及び利用料請求時に、利用者の健康状態等について家族に定期的に報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族会」は設立されていますが、十分機能しているとは言い難い状態です。(平成19年7月2名出席が最も新しい会合。)ただし、管理者面談では今後の積極的な活動の布石が窺えます。	○	管理者面談等より今後、「新聞」[お便り]等の発行を通じて、家族との情報交換、家族会の充実が期待されます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、今回の「利用者アンケート」でも説明がなかった旨指摘がありました。今後とも、きめ細かい異動への配慮が望まれます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の食事を共にした「社内研修」はかなり熱心(資料等で確認)に行われています。	○	今後は社外研修への参加も計画的に行われることが期待されます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香取市での同業者との交流は活発であり、ケアマネジャー連絡会、グループホーム連絡会、認知症ケアを考える会に参加して情報交換、研修等を行っていることが、資料、管理者面談等より窺えます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にスタッフが自宅を訪問し、パンフレットや写真を見てもらいながらサービスの内容を理解してもらっています。本人、家族等の要望を確認し様子を観察しながらサービスのイメージを持ってもらい、介護につなげています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族または利用者とのさりげない会話を大切にしたり、「お米博士」と言われる米づくり70年の男性による貴重なお話や「百人一首」や、戦前の「遊び唱歌」を教わったり、人生の喜びを教えてもらいながら、お互いに支えあう関係を築いています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の会話の中で把握したことは、ファイリングし、現場に活かし、創意工夫しながら個別支援を実現しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	頻りに訪問する家族を含め時間的余裕のない家族には、連絡をとり意見を聞いています。また、月一回のミーティングにケアマネージャーが把握できないところをスタッフ等からも情報収集し、各種意見を反映した介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し、変更は、今現在はなされていません。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族の暮らしを守るために、機能を生かした支援が図られています。利用者の健康管理、職員のスキルアップ、ボランティアによる支援、医療分野等への柔軟な支援が積極的に実践されています。また近くの医療機関とは日ごろから緊密な連携が図られています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症に詳しい医師による「定期健康診断」や往診の協力体制が整っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に一人だけ看取りの経験を生かし、家族の希望を取り入れたなかで、主治医による十分な話し合い、指示、支援のもと家族、チーム全員と共有しながら終末介護が行われています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員による言葉かけは慎重、丁寧に行われています。利用者一人一人には、ゆっくりと親しみやすい言葉かけが実践されています。個人情報等重要書類は、他人の目に触れない場所に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせることなく、利用者本人の気持ちを大切にし、意見を尊重しながら利用者の用事、体調を最大限取り入れ、そのペースに合わせた支援が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	バランスよく配置された職員のもと、こまやかな配慮の下で食事を楽しむさりげない支援が行われています。10時のおやつ時には、利用者と一緒に相談しながら好物とするメニューが決定されています。また、食材の準備、配膳、下膳も職員と一緒にしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、いつでも入れるように毎日準備されています。入浴の好き嫌いに合わせ、一人一人のタイミングに合わせた入浴プランが作られ、楽しめる入浴支援が最大限図られています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の散歩を日課としている人やお祭り好きな方には、ビデオでの鑑賞やポスターを部屋いっぱい飾って喜んでおられます。ボランティアによる月一回の絵画教室には、全員が参加しています。身体障害者作業所への通所や調理の手伝い、洗濯物たたみ、床掃除など活発な支援が行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天を除き日々毎日の散歩が励行されています。障害を持つ方への細かい配慮がなされ、週三回の作業所への送迎支援やお祭り時期、あやめの時期等四季を通しての支援が行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつも監視されるような状態を避けるためにも日中鍵をかけないでオープンにしています。利用者も生活に慣れてこられたせい外に出ようとされず出入りは自由になっています。一人でも外へ出た際は、ブザーやドアの開閉音に職員が気づくようになっており、職員一人一人が付き添う支援が行われています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	直近では、平成20年1月30日に消防署員の参加を得て「火災訓練」を実施しています。(毎年1回実施。)利用者の各部屋には防災ズキンと防災マスクが常備されており、消火器の取り扱いの訓練等と共にきめ細かい災害対策を行っていることが窺えます。	○	推進会議のスタッフの充実に伴い、地域の方々と「合同訓練」も声が掛けやすくなったと思われます。町内会、消防署等との協議のもと、具体的な訓練の実施が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせて、歯のない方には刻み食やミキサー食等を取り入れ栄養のバランスが上手く図られています。利用者個々に合わせた食事形態が提供され、食事量もきちんと記録されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、誕生会の写真集、季節の花々、人形、クリスマスの飾りつけ等が明るく、カラフルに飾られています。日当たり、風通しもよく居心地の良い空間作りとなっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れた家具、飾り物等が持ち込まれており、明るく清潔な感じの居室になっています。		